

# 公孫樹

2023年9月発行

第140号

浄土宗慶蔵院

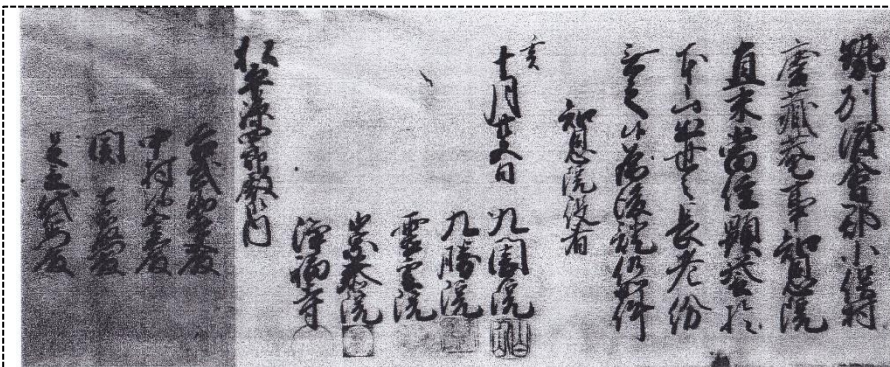
伊勢市小俣町元町 1211

TEL 0596 (22) 3726



下小俣かんこ踊り

画 山寄淑子



勢州度會郡小俣村  
慶蔵庵事知恩院  
直末當住顕譽於  
本山出世之長老紛  
無之候為後證仍如件  
知恩院役者

亥  
十月廿五日 九閏院印  
九勝院印  
靈雲院印  
崇泰院印  
淨福寺印

松平孫四郎殿御内  
吉武助大夫殿  
中村弥五兵衛殿  
関七郎左衛門殿  
足立代右衛門殿

## 明らかになった慶蔵院の歴史

本堂に掲げてある左記の古文書、これは任職就任後に見つけたものです。小俣村「慶蔵庵」とあることで慶蔵院は、かつて「慶蔵庵」と呼ばれていたのだということがわかります。では、いつ頃まで「慶蔵庵」だったのか…。このことを解明してくれたのが白山町在住の森川正美氏。教師時代の同僚で義妹の夫です。地域で古文書の研究をしています。お盆に来てくれた時に依頼したところ、返事をいただきました。以下、その内容をまとめてみます。

森川氏による古文書の現代語訳は

「伊勢国度會郡小俣村の慶蔵庵は知恩院直屬の末寺で、当代の住職顕譽本山における出世の長老であることに相違ない。後日の証のため、以下記載の通りである。知恩院役者」

「亥 十月二十五日」が、西暦の何年にあたるか…、森川氏が解明してくれたのです。決め手となったのは、この古文書の宛先になっている

「松平孫四郎」の人物は享保二年から同十年まで鳥羽藩主でした。この手がかりから、享保四年が亥の年。則ち一七一九に、この古文書が書かれたものと判定してくれたのです。

慶蔵院はこの年までには慶蔵庵と呼ばれていたことになりました。

小俣町小林家古地図には、現在の宮川の川下に慶蔵庵が記載されています。洪水で流されたため今日の地に移築されたのでしょうか。

# 9月の行事予定



6日(水)	写経 男性詠唱隊	午前10時～ 午後7時～
7日(木)	講演会 「宗教は平和にどう向き合 うのか」 北島義信先生	午後2時～ 一会館にて 入場無料
11日(月)	華道「山村御流」教室 講師 小森清真先生	午後1時半～ 参加費 2000円と花代
13日(水)	落語会「いちご亭」 南遊亭栄歌・安楽亭東風	午後7時～一会館にて 無料 おひねり歓迎
14日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時
20日(水)	健康教室 歩き方教室 講師 馬場久美子先生	午後1時～3時 参加費 500円
23日(土)	秋彼岸法要	午前10時～
25日(月)	戦没者慰霊平和の鐘	朝の勤行にて 鐘撞は午前8時頃
27日(水)	地蔵講・地蔵堂開帳	午後1時半～
9日・23日(土)	絵画サロン講師 山寄淑子先生	午後7時～8時半 参加費1回500円一会館にて
8日・22日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生 田島宗紀先生	午後7時～こども茶道教室 午後7時半～大人茶道教室 参加費大人500円 一会館にて

## 新紙幣の発行

慶蔵院豆知識

part2

④

二〇〇四年以来約二〇年ぶりに、令和六年七月に新紙幣が発行されます。現在一万円は福沢諭吉、五千円は樋口一葉、千円は野口英世から、一万円渋沢栄一（日本資本主義の父とされる実業家）五千円は津田梅子（女性の地位向上に尽力した教育者）千円は北里柴三郎（破傷風の治療法を確立した微生物学者）になります。

そもそも紙幣のデザインはだれが決めるのでしょうか。財務省、日銀、国立印刷局の三者で協議し、財務大臣が決めることになっています。「日銀法四七条二項・日本銀行券の種類は財務大臣が定めこれを公示する」二〇一九年の閣議後の記者会見で、麻生太郎大臣が発表しています。国会の審議は経ていないので国民の意見は反映されていないのですが、私が問題にしたいのは、渋沢栄一です。大変立派な方ですが、変わり身の早さがすごいです。家業が農業の家に生まれ、（尊攘倒幕の志士↓徳川家臣↓明治政府官僚↓実業家）と転身を重ねています。お釈迦様は、いかなる境遇にも姿色を変えませんでした。

徳川慶喜の弟昭武に同行して、パリ博に行った時、資本主義というものに出会って、銀行や保険会社、株式会社、株式取引所等を次々と立ち上げていきます。これらはお金を集める装置だと思えますが、フランスで資本主義について教えてもらった人は親切心からだったのでしょうか？現在の日本状況を見ていると何か下心があったような気がします。野口英世の千円札を見て下さい。顔の右半分と左半分では形がちがっていますか。真ん中で半分を折ってみるとわかりやすいです。裏の富士山の逆さ富士の形が変です。形が合っています。富士山の所をすかして見て下さい。富士山の真ん中に目が映っています。変なデザインですね。今回渋沢栄一が選ばれたのは、日本に資本主義を根付かした褒美なのかもしれません。

（文 麻畑公生）







# おしらせとおねがい



## 麻畑公生の 「浄土宗新聞」 見どころ・読みどころ

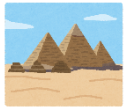


ろ  
P. 6・7

### 浄土宗政策協力ドラマ『女子高生、僧になる。』 スペシャル対談

お寺がもっと身近になる異色のドラマです。若者がお寺を運営するストーリーなんて、なかなかおもしろそうです。ただ残念なのは、関西の毎日放送で、しかも夜遅くの放送だということです。幸いインターネットの番組見逃し配信では見れますので、興味のある方は是非見てください。お寺がどんな問題を抱えているかが分かるかもしれませんし、若者をお寺に引き付けるアイデアもなにかわかるかも知れません。

- ① 23日の秋彼岸法要に向けて、お塔婆の申し込み、10日日曜日までによりしくお願いします
- ② 9月7日(木) 2時からの講演会、信仰の大切さと平和とのつながりについて、大切な気づきを与えていただける北島義信の先生の講演です。どうぞいらしてください。
- ③ 10月4日(水) 吉村作治「エジプトに夢を掘る」の講演会、整理券の申し込みは、お塔婆の申し込みと一緒に、必要枚数を、10日までに慶蔵院に申し込んでください。後日、お届けします。  
講演会チラシもご覧ください。



## 住職の健康回復への道のり(19)

おかげさまでお盆の務めを無事に果たさせていただくことができました。車の送迎を担当してくださった寺世話人さん、お塔婆のほとんどを書き上げてくれ、棚経を分担してくれた副住職、そして体調の心配をいただいた、多くのみなさんに支えられたお盆であったと感謝いたします。ありがとうございました。

ロブ理論と呼ばれる内臓調整、特にお腹の「上腹部の柔らかさ」を大切にされる治療を受けて一年半、こうして元気に今日を迎えることができたことも、石垣先生とのご縁をいただいたからだと言っています。「疲れた時には内臓はもっと疲れているのだから食べすぎに注意」「疲れを取るためには体操と半身浴」「お腹を冷やさない。下半身は夏でも冬装束。バッチに靴下で、ホットパックの使用を」「長い呼吸に意識を集中」...

忙しさの中でつい後回しにしてしまうのが健康です。健康を失って初めて気づく健康の大切さ。その健康回復に不可欠な内容を、厳しく指導していただいて、やっとここまでたどり着くことができました。

朝六時の勤行に本堂に上がることから一日が始まります。腰痛に苦しんだ三日間も続けました。二日間は椅子で。しかしお腹を温めて汗を流したら痛みは三日間で消えていったのです。



令和5年10月4日(水)

会場 12時30分

開演 13時

第13回大正大学公開講演会

松阪 樹敬寺本堂にて 松阪市新町 874

吉村作治先生 講演会

入場無料(整理券が必要です)

参加希望の方は、慶蔵院にお申し込みください!!

講演会 九月七日(木) 午後二時から

講師

慶蔵院「一会館」にて  
三重県宗教者平和協議会代表  
四日市大学名誉教授

真宗高田派正泉寺前任住職

北島義信先生

演題

「宗教は平和にどう向き合うのか」

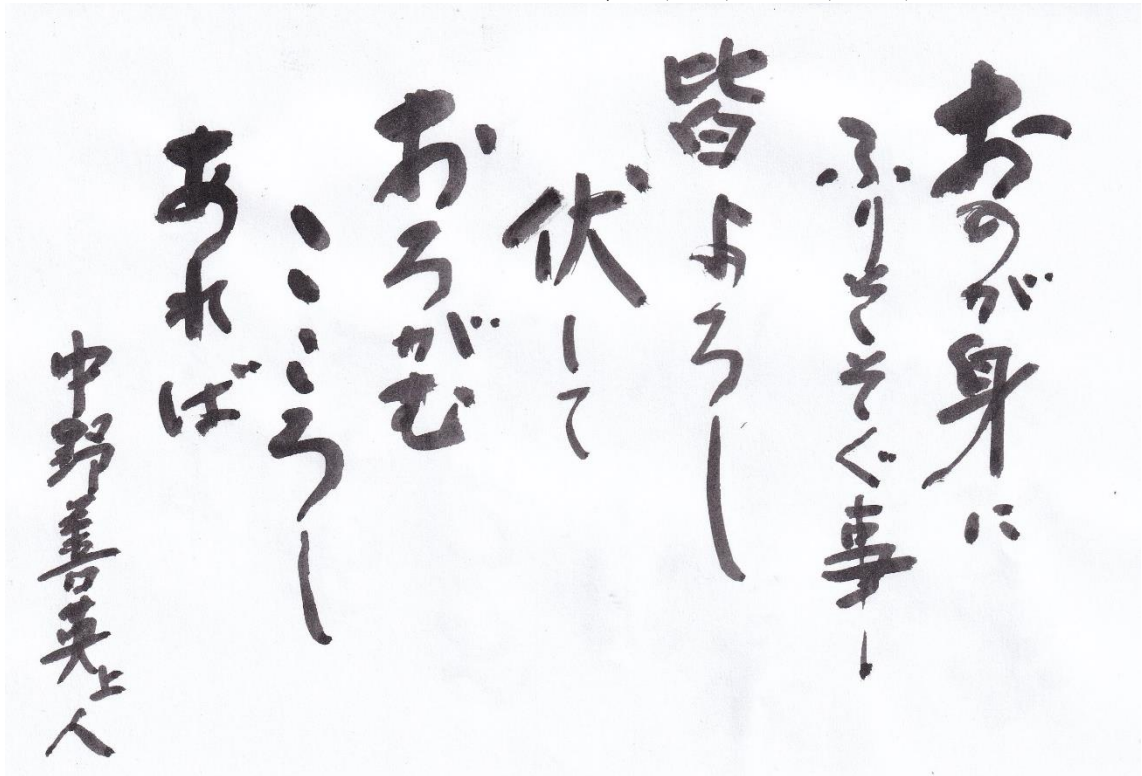
落語会「いちご亭」

無料です

第2水曜 十三日 午後7時

慶蔵院 「一会館」





神谷成章先生が七月九日、突然に亡くなられた…との連絡をいただいた。しばらく咳が続いていた先生の身体を心配した家族が、必死に説得して病院に連れて行った。結果はコロナと診断され、先生は隔離病棟に…。面会できたのは濃厚接触者にならなかったお孫さん一人。亡くなるまでに先生と話ができただのは一回限り、あとは洗濯物を届けに行っただけだったという。容態の変化に酸素吸入が開始され、二度目の面会、先生の意識はすでになかった。入院してから四日目のことだったという。

八月二十三日、やっとのことで時間をつくり、林さんの運転で吉良まで走った。吉良商店の社長でもあるお孫さんから話を聞かせていただいた。「百歳までは、世のため人のために仕事を続ける…」と日ごろから語っておられた神谷先生。みんなが会社に戻ってきてくれると信じていたのに…。この現実をまだ受け入れられないようだった。

会社は山の中にある。先生は二十五歳の時、この山に入りこの山で研究を重ね仕事をしてくられた。コンテナを改良した書齋兼応接室が先生のもっとも好きだった場所だという。おじやまするたびに、缶コーヒーをいただき、お話しを伺った場所だ。先生から伺った話が思い出されてくる。

外に出て前の山に向って読経・念仏を称えた。谷から吹き上げてくる風が先生と対話させていただいているように読経・念仏に呼応してくれた。ありがたい一瞬であった。

「おっさん、サツマイモを作れ。ワシらのムコに入れたらどんな芋でも糖度が上がる。紫外線をカットする方法を見つけたんじゃ…」先生の言葉が遺言のようによみがえってくる。すでに株式会社神宝農産は解散してしまっている。残された道は「てらこや塾」方式に戻ること。みんなで耕し、みんなで収穫をする。協同農業システムと言うべきものか…。一年に一度のサツマイモづくりに集まった人が、収益を分配しながら仲間をふやし、耕作放棄地を減らしていく…。ゆっくりとした歩みではあっても、一步を踏み出そうと思う。どうぞ神谷先生、お導き下さいますように…。